

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月31日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20320043

研究課題名（和文）和刻本漢籍再評価のための総合的研究-底本解明を目的として-

研究課題名（英文）Comprehensive research for printed Chinese-books in Japan reappraisal

研究代表者

山崎 誠 (YAMASAKI MAKOTO)

国文学研究資料館・研究部・教授

研究者番号：70094696

研究成果の概要（和文）：

日本及び東アジアにおける漢籍受容史上の重要性を認識する上で和刻本の持つ価値を再評価する目的で、主として研究対象を明代の漢籍とその復刻本である和刻本を対象として実施した。和刻本と底本となった明代版本の関係を明らかにすること自体が重要な研究である。再評価及び重要性の認識は、中国本土では既に失われた漢籍であること、日本において格別重要な文化源泉であったことの二つの観点からなされるべきことを指摘できる。近代に於ける学術の西洋志向の中で置き忘れられた、文化財資源としての和刻本の再発見という研究領域を確立し、研究を活性化することができた。

研究成果の概要（英文）：

When recognizing the importance Chinese-books acceptance in history in Japan and East Asia, the subject of research was mainly carried out for printed Chinese-books in Japan Wakokubon which is Ming era Chinese books and reprinted book in order to reappraise the value which printed Chinese-books in Japan Wakokubon has.

It is important research to clarify the relation of the Ming era version book used as printed Chinese-books in Japan Wakokubon and original itself.

Reappraisal and the recognition of importance can point out that they are the already lost Chinese books and the thing which should be made from two viewpoints of having been the exceptionally important cultural fountainhead in Japan in mainland China.

An area of investigation called rediscovery of printed Chinese-books in Japan as cultural-assets resources forgotten in the Western intention of the arts and sciences in modernization was able to be established, and the research was able to be activated.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2009年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2010年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2011年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
年度			
総計	14,500,000	4,350,000	18,850,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：和刻本、漢籍、底本、明代版本、朝鮮刊本

## 1. 研究開始当初の背景

(1)本研究の土台となる『和刻本漢籍分類目録』及び『和刻本漢籍分類目録補正』の電子データ化は、著作権者（長澤孝三先生）の諒解を得て既に完成している。このデータを格納する基本的システムも開発済みで、運用実験にも成功している。本研究は和刻本の偏りの無い全体像の解明を目指している。近世出版事情からみて圧倒的数量を誇っているため従来別個に扱われ、従って解明が遅れている仏書と、これに対して比較的解明の進んでいる医書に関する和刻本についても（小曾戸洋『中国医学古典と日本』1996年に代表される）、それぞれ現在最も先端的研究を領導している適任者を研究分担者に配置して、研究情報の収集と集約に努めている。

(2)大学共同利用機関法人人間文化機構国文学研究資料館は、国書の〈文学書〉の収集を使命としたものであるため、〈準漢籍〉や五山文学、近世文人の詩文集の収集資料は、重要な資料群（とりわけ『木村兼葭堂のサロン』などで知られる中村真一郎氏より寄贈を受けた膨大な漢詩文コレクションがある）が存在する一方、組織的網羅的なものではない。それでも過去三十年にわたる国書の調査収集に付随してマイクロフィルムによる内外の和刻本資料が結果的にかなり蓄積されている。これを生かすことができる点で本研究は有利である。また、近世出版文化や流通全般に詳しい研究スタッフの助言や知識の提供を得ることができる。国文学研究資料館は新たな研究施設に移転し、本研究に関する学術交流集会や企画展示を行う上で、ますます充実した研究環境が約束されている。

(3)本研究に関わる海外共同研究者としては、中国の和刻本情報を集約している北京図書館、上海図書館の研究協力の確約を得ているが、研究の進展によって随時中国側の協力者（韓国・台湾を含む）を募る。

## 2. 研究の目的

本研究のキーワード〈和刻本〉とは、唐本漢籍を日本人に理解しやすい形、概ね訓読のための校点を付けた形で提供したものである。本研究では便宜これに中国人の編著書に日本人が注釈や考証及び批評を加えた〈準漢籍〉を含めて研究対象とする（準漢籍は日本人が編著者である点からは、国書概念に収まる）。

和刻本は国書研究の立場からも、漢籍研究の立場からも、**Marginal** あるいは **Osculant** な領域として認識され、その研究自体置き忘れられた感の否めない研究領域である。

本研究は、「日本列島の上に載っている書籍は、国書と漢籍（釈老の立場に立てば漢訳仏典とその章疏所謂仏書は四部分類の子部に収まる）という二つの焦点をもつ楕円状に展開している（近代以降欧文の文献が加わる）。七世紀以来、国書と漢籍仏書とを分けるものは実質的に表記体のみの違いであり、漢文訓読という翻訳技術により（十九世紀以降の欧文文献の受容に於いてはこの手段をとらなかった）、日本語文献として読まれ、書かれている。この点に着目すれば訓読された漢籍は、西洋に対峙して国民文学が前景化するまでは日本人が校点を施した国書にほかならない。（鎖国など地政学的要因に因って我々の祖先は長く一元的言語世界に籠もり、多元的言語世界との接触をしてはいな

い) 」との基本的共通認識に立ちつつ、和刻本の我が国及び東アジアに於ける漢籍受容史上の重要性を再評価することを目的とし、併せて文化財資源としての再評価・再発見を行うことを目的としている。

### 3. 研究の方法

(1) 「和刻本出版年表」作成班による『和刻本漢籍分類目録』に基づくデータに付加データ

(①序跋情報②訓点(校点)情報③行格情報④底本情報)を追加して蓄積することを第一目標として推進する。

(2) 「和刻本序跋集成」班による序跋の解析(主としてベクトル・データベースを活用した近世文人のネットワークの構築と、彼等の文集などに散見する漢籍・中国文物に関わる序跋情報を集成する)と「和刻本序跋集成」の編纂を中心とした研究を継続することを第二の重要課題として取り組む。

(3) 国文学研究資料館主導による、和刻本研究の意義と課題、研究方法の確立をテーマとする公開学術会議・企画展示を開いて、個別研究の知識を深め、研究方法について全体討議と相互批評を行う。

(4) 和刻本の書誌調査法の確立とデータの格納法の改善に於いて、研究分担者の全員参加による共同フィールド調査を踏まえた(聖藩文庫など二、三箇所を予定)書誌調査のためのマニュアルと、目録化のためのマニュアル(京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター編『漢籍目録カードのとりかた』などをモデルとした)の作製を行う。

(5) 国文学研究資料館主導による、和刻本研究の意義と課題、研究方法の確立をテーマとする公開学術会議・企画展示「和刻本ーその登場から退場までー」(仮称)の結果を受けて論文集の公刊のに向けて推進をはかる。

(6) 海外共同研究者との共同研究に該当す

る研究を予定しているが、北京図書館と上海図書館に於ける和刻本の所蔵情報については、既に提供頂ける内諾を得ている。逆に中国の古典籍研究に資すると思われる我が国の和刻本及び漢籍の情報についても積極的に提供して、国文学研究資料館としても互恵的関係の構築に努めたいと考えている。研究期間中に毎年活発な相互訪問、学術交流を計画している。

(7) 仏書・医書を含む和刻本のユニオンカタログ編纂へ向けての将来計画と他機関との共同連携研究の企画の模索と策定を行う。

### 4. 研究成果

以下の四つの具体的研究成果を得た。

(1) 各和刻本漢籍の底本はどのようなテキストであるのか、異本が存在する場合、そのテキストの系譜はどのようなものなのか、それらのテキストは現存するかどうか、など徹底した伝本の調査を通して、和刻本漢籍の文献学上の価値・特徴を明らかにするための情報収集と分析を行った。出版された和刻本漢籍が日本文化に与えた影響を、具体的な事例を通して緻密に分析した。同時に東アジア各国の研究情報の徹底的な追尾と集約を図った。

#### (2) 共同研究計画

共同研究会を開き、個別研究の知識を深め、研究方法について全体討議と相互批評を行った。更に本研究計画は重要な柱として、中国や韓国、ベトナムの古典籍研究に資すると思われる我が国の和刻本及び漢籍の情報(画像や所在情報)についても、積極的に提供して、国文学研究資料館として互恵的研究態勢の構築に努めた。

#### (3) 国際フィールド調査と情報集積

北京大学図書館、中国国家中央図書館、上海図書館、上海復旦大学図書館、南京大学図書

館の和刻本朝本・越南本調査の、和刻本と明版と諸国版との関係性について、国際集会で意見交換を行い、問題点について討論した。国際協力による明版の書誌調査法の確立とデータの格納法の改善に於いて、協力者の支援のもとに、国際共同フィールド調査を踏まえた書誌調査のためのマニュアルと、目録化のためのマニュアル標準目録規則をほぼ完成することができた。目録学や題跋に関する認識の有無、各国書誌学の伝統や手法の相違などがあって、国際標準となることには、更に多角的な批判を経なければならない。

(4) 研究成果について成果報告書『和漢之間』（仮称）を作成する予定である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

①山崎誠「ジャンルとしての題跋」『日本文学』65号、査読有、2012、pp31～39

②入口敦志「飾りとしての文学--肖像画における文学の可視化」『文学・語学』199号、査読有、2011、pp79～97

③山崎誠「唐絵屏風の源流--北魏司馬金龍墓出土屏風漆画の主題と構成」『国文学研究資料館紀要.文学研究篇』36号、査読無、2010、pp1～28

④陳捷「上海図書館の古典籍の収蔵および整理について」『国文学研究資料館紀要.文学研究篇』36号、査読無、2010、pp97～129

⑤陳捷「關於清日公使借抄日本足利学校蔵〈論語義疏〉古鈔本的交渉」『板本目録学研

究』2輯、査読有、2010、pp375～408

⑥山崎誠「《太公家教》流傳考」『風起雲揚』査読有、2009、pp559～577

⑦陳捷「幕末における日中民間交流の一例--知られざる日本人八戸弘光について」『中国哲学研究』24号、査読有、2009、pp179～211

⑧入口敦志「模倣と変容--『帝鑑図説』受容発端」『江戸文学』38号、査読有、2008、pp22～42

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

山崎 誠 (YAMASAKI MAKOTO)  
国文学研究資料館・研究部・教授  
研究者番号：70094696

### (2)研究分担者

陳 捷 (CHEN JIE)  
国文学研究資料館・研究部・准教授  
研究者番号：40318580

入口 敦志 (IRIGUCHI ATUSHI)  
国文学研究資料館・研究部・助教  
研究者番号：80243872

### (3)連携研究者

なし